

## はじめに

群馬大学共同教育学部附属小学校長 渡部孝子

令和5年度は、群馬大学創基150周年の年でもあり、その記念事業の一環として公開研究会を開催いたしました。公開研究会では、皆様から貴重なご意見やご助言をいただき、大変多くのことを学ばせていただくことができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、今年令和6年度の研究主題は、「共によりよい生活を創造する子どもの育成（2年次）～非認知能力『他者と協働する力』を発揮する学びのデザイン～」といたしました。昨年度の研究主題を引き継いだ2年目の研究となります。昨年度の副主題は「非認知的能力『目標への情熱』と『粘り強さ』に着目した学びのデザインを通して」としていましたが、その研究をさらに発展させることを目指しました。

昨年度から引き継いだ研究主題「共によりよい生活を創造する子どもの育成」は、本校の学校教育目標にもつながっています。本研究では、学校教育目標である「つよく たくしく かしこく」に照らした目指す子ども像は、非認知能力である「粘り強さ」や「他者と協働する力」、「社交性」などの「学びに向かう力・人間性等」を含めた姿として捉えています。この学校教育目標に照らした目指す子どもの像には、自分や他者、社会などにとって幸せな生活に向けて、自らの進むべき方向を見出し、歩みを進めて欲しいという願いが込められています。そのためには、共によりよく生きていくことのできる生活の創造を目指し、自ら歩みを進められる子どもを育成したいと考え、研究主題を設定しています。

さらに本校では、「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するためには、教科本質的な学びが必要であると考えています。教科等の学びを通じて非認知能力「他者と協働する力」を発揮しながら問題解決的な学習に取り組むことで、互いの思いや考えを尊重し、子どもたちがよい影響を与え合いながら、問題や課題を解決に導くことができると考えます。

令和6年度の研究は、「共によりよい生活を創造する子ども」を育成するために、非認知能力「他者と協働する力」に着目した学びのデザインの在り方を実践を通して明らかにすることを目標としています。本公開研究会では、各教科等部の研究の成果の一部を皆様に見ていただき、子どもたちの未来のための教育の在り方を共に考える機会としていただきたいと思います。

また、今年は2日目に教育講演会を企画しました。教育講演会では、岡山大学の中山芳一先生より、「認知能力と非認知能力を一体的に育成する教科指導の在り方」というテーマでお話をいただきます。中山先生は、教育方法学をご専門とされ、非認知能力の向上に関わる研究に携わり、多くの著書や論文を發表されています。2015年にOECDが社会情動的スキルを提唱し、非認知能力がVUCAな時代を生き抜く力として注目されています。この教育講演会が、ご参会の皆様方の今後の教育活動の一助となることを期待しています。

最後に、今年度も群馬県教育委員会及び市町村教育委員会の先生方をはじめ、群馬大学共同教育学部の先生方から貴重なご指導・ご助言を頂戴しました。教職員を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。また、次年度以降の研究に生かすために、皆様から忌憚のないご意見やご感想等をいただければ幸甚です。どうぞよろしくお願い申し上げます。